

事務事業名	消防団活動用資機材整備事業			
事務事業担当	部  名	課  名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標		暮らしの安全を守る		
	めざす成果		十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	消防組織法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和39年度				設定無し

2. 事務事業の概要						
対 象		総事業費 (単位：千円)				
消防団員			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）	
		事業費	3,593	5,284	11,359	
		人件費	2,908	2,469	2,976	
目 的		総事業費	6,501	7,753	14,335	
消防団員の災害活動の充実、強化を図ります。		6年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金			2,546	
手段、手法【実施手法：直営】 消防団が行う災害活動に対し、適切な資機材を選定し整備します。		県支出金			3,652	
		市債			0	
		その他			0	
		一般財源			5,161	
		合 計			11,359	
3. 活動内容						
活動指標1	名称	消火用資機材			単位	本
	内容説明	消防用ホースを計画的に整備します。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	34	34	34	
		実 績	34	34	— — —	
活動指標2	名称	個人装備資機材			単位	個
	内容説明	個人の活動用資機材を計画的に整備します。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	10	20	30	
		実 績	10	10	— — —	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			— — —	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			— — —	
課 題						
使用中の無線機の製造中止により、部品の調達等が困難になることから、新たな無線機への更新が必要になります。						

4. 今後の方針等					
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度  I：現状のまま継続
	発生が予測されている都心南部直下地震等の大規模災害を見据え、資機材の充実強化を図ります。 【第2期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】				

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	3年度	4年度	5年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	地域を守る消防力である消防団の活動用資機材の整備は、消防の責務であり、消防責任を有する市が整備する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	3年度	4年度	5年度	A：十分に成果を上げている。
	A	A	A	大規模災害に必要な資機材を適正かつ計画的に更新整備を行います。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	3年度	4年度	5年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	国庫補助金及び県補助金を活用することで市費の節約に努めます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	3年度	4年度	5年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	災害対応用の資機材であるため、受益・負担は適正に行われています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	3年度	4年度	5年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	環境負担を軽減するため、資機材の一括発注や、納品時における梱包の簡素化を徹底しています。

事務事業名	消防活動用資機材整備事業			
事務事業担当	部  名	課  名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	警防係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間				
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち	
	個別目標		暮らしの安全を守る	
	めざす成果		十分な消防力が整っている	
根拠法令	名 称	消防組織法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和39年度			設定無し

2. 事務事業の概要						
対 象		総事業費 (単位：千円)				
消防職員			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）	
		事業費	11,577	16,770	12,905	
		人件費	2,570	1,741	1,741	
目 的		総事業費	14,147	18,511	14,646	
安全かつ迅速な消防活動と、効果的な災害防ぎょ活動を行うために必要な資機材の整備を行います。		6年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金		0		
		県支出金		3,621		
		市債		0		
		その他		0		
		一般財源		9,284		
		合 計		12,905		
手段、手法【実施手法：直営】						
消防活動に必要な資機材及び装備品を計画的に整備します。						
成 果（効果・予測）						
消防力を維持向上することで、災害対応力が充実し、災害からまちを守ることができます。						
3. 活動内容						
活動指標 1	名称	空気呼吸器一式購入			単位	基
	内容説明	隊員を保護する空気呼吸器を整備します。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	4	4	4	
		実 績	4	4	――	
活動指標 2	名称	消防用ホース購入			単位	本
	内容説明	消火活動に欠かせない消防用ホースを整備します。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	104	112	29	
		実 績	104	112	――	
活動指標 3	名称	無人航空機（ドローン）購入			単位	式
	内容説明	大規模災害等に欠かせないドローンを整備します。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	0	1	0	
		実 績	0	1	――	
活動指標 4	名称	救助用ロープ購入			単位	
	内容説明	救助活動に必要な救助用ロープを整備します。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	4	4	4	
		実 績	4	4	――	
課 題						
・消防活動用資機材は、耐用年数の限られているものが多く、資機材の整備計画に基づき、更新整備を行う必要があります。						
・近年の複雑多様化する災害及び地震災害に対応するために、資機材を整備する必要があります。						

4. 今後の方針等						
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	多種多様化する災害現場において、消防の責任を十分に果たし、これらの災害による被害を最小限に軽減するため、消防活動用資機材を計画的に整備します。					

5. 評価結果					
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。	
	3年度	4年度	5年度	A：市が関与する必要性が高い。	
	A	A	A	消防力のひとつである消防活動用資機材の整備は、消防の責務であり、消防責任を有する市が整備する必要があります。	
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。	
	3年度	4年度	5年度	A：十分に成果を上げている。	
	A	A	A	消防活動用資機材整備計画に基づき、適正かつ計画的に更新していきます。	
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。	
	3年度	4年度	5年度	A：経費は適正な水準である。	
	A	A	A	県補助金を活用するなど事業費増加の負担軽減に努め、人件費は必要最低限の人員で効率的に事業を実施していきます。	
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。	
	3年度	4年度	5年度	A：受益・負担は適正である。	
	A	A	A	災害活動用の資機材であり、受益・負担は適正であると考えます。	
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。	
	3年度	4年度	5年度	A：社会的配慮を十分に行っている。	
	A	A	A	環境負担を軽減するため、納品時における梱包の簡素化を徹底しています。	

事務事業名	消防車両整備事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	警防係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち			
	個別目標		暮らしの安全を守る			
	めざす成果		十分な消防力が整っている			
根拠法令	名 称	消防組織法				
		道路運送車両法				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和39年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費			(単位：千円)
消防用車両		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
	事業費	39,536	57,000	110,317
	人件費	6,762	6,530	6,965
目 的	総事業費	46,298	63,530	117,282
災害活動の中心となる消防車両を整備し、消防力の向上を図ります。	6年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		19,758
		県支出金		6,008
		市債		83,100
		その他		0
		一般財源		1,451
		合 計		110,317
手段、手法【実施手法：直営】				
複雑多様化する災害に対応するため、また車両の老朽化に伴う消防力の低下を防ぐため、消防車両等更新基本計画に基づき、各車両の更新・整備を行います。				

活動指標1	名称	購入車両数			単位	台
	内容説明	整備の必要のある車両数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	1	3	3	
		実 績	1	3	――	
活動指標2	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅰ：現状のまま継続	5年度	Ⅰ：現状のまま継続
	・消防力の低下を防ぐため、消防車両等更新基本計画に基づき消防車両を適正かつ計画的に新規更新整備します。 ・緊急車両に該当しない車両については、車両の状態から判断し、更新の延伸が可能な車両は、更新を延伸し事業費の削減に努めます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	3年度	4年度	5年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	消防力のひとつである消防車両の整備は、消防の責務であり、消防責任を有する市が整備する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	3年度	4年度	5年度	A：十分に成果を上げている。
	A	A	A	消防車両等更新基本計画に基づき、適正かつ計画的に更新していきます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	3年度	4年度	5年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	国庫補助金及び県補助金を活用して整備しているため、利用する補助金の種類が増えることにより業務量は増加することとなりますが、市費の節約に努めていきます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	3年度	4年度	5年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	消防の責務を果たすために必要不可欠な消防車両を整備しており、受益・負担は適正であると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	3年度	4年度	5年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	消防車両本体は、できる限り環境整備を満たしているものを採用しています。

事務事業名	消防庁舎維持管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち			
	個別目標		暮らしの安全を守る			
	めざす成果		十分な消防力が整っている			
根拠法令	名 称	消防組織法				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和39年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費				(単位：千円)
消防庁舎		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）	
	事業費	79,777	74,533	87,191	
	人件費	8,206	7,693	7,329	
目 的	総事業費	87,983	82,226	94,520	
消防庁舎を適切に維持管理します。	6年度事業費（予算額）財源内訳				
手段、手法【実施手法：直営・委託】	国支出金		0		
	県支出金		0		
	市債		0		
	その他		798		
	一般財源		86,393		
	合 計		87,191		
光熱水費の管理、施設消耗品の購入、庁舎清掃委託等の施設維持、庁舎維持補修計画による修繕及び突発的な設備の故障などに予算の範囲内において対応します。					

活動内容	活動指標 1	名称	保守委託件数		単位	件
		内容説明	機器の保守及び庁舎管理業務			
		指標値	4年度		5年度（当該年度）	6年度
			予 定		17	22
			実 績		23	23
	活動指標 2	名称	庁舎施設の修理件数		単位	件
		内容説明	施設の修繕			
		指標値	4年度		5年度（当該年度）	6年度
			予 定		40	40
			実 績		30	27
	活動指標 3	名称			単位	
		内容説明				
		指標値	4年度		5年度（当該年度）	6年度
			予 定			
			実 績			---
	活動指標 4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値	4年度		5年度（当該年度）	6年度
			予 定			
			実 績			---

課 題	・ 公共施設の長寿命化計画に鑑み、建物及び設備の老朽化について、計画的な維持補修を実施していく必要があります。
	・ 昭和55年3月に竣工し令和6年度で築44年が経過する消防本部庁舎施設の修繕及び建て替え計画を策定していく必要があります。

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	庁舎の維持補修は、予算の範囲内において計画的に執行します。					



事務事業名	消防水利施設維持管理事業			
事務事業担当	部  名	課    名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	警防係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標		暮らしの安全を守る		
	めざす成果		十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	消防組織法			
		消防法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和34年度				設定無し

2. 事務事業の概要								
対 象		総事業費 (単位：千円)						
市内公設消防水利施設			4年度（決算額）		5年度（決算額）		6年度（予算額）	
		事業費	13, 859		19, 724		15, 099	
		人件費	3, 426		3, 482		3, 047	
目 的		総事業費	17, 285		23, 206		18, 146	
消火栓、防火水槽の消防水利施設を常に適正な状態に維持します。		6年度事業費（予算額）財源内訳						
			国支出金				0	
			県支出金				0	
			市債				0	
			その他				0	
			一般財源				15, 099	
			合 計				15, 099	
手段、手法【実施手法：直営】								
市内に設置されている消火栓、防火水槽を消防隊が毎月点検し、発見した不具合箇所の補修を行います。		3. 活動内容						
		活動指標 1	名称	防火水槽修理件数			単位	件
			内容説明	防火水槽を修理した件数				
			指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
				予 定	3	3	3	
			実 績	3	3	— — —		
		成 果（効果・予測）						
消防水利施設を適正に維持することで消火活動が迅速に実施でき、火災による被害を軽減することができます。		活動指標 2	名称	消火栓維持管理件数			単位	件
			内容説明	消火栓を点検した件数				
			指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
				予 定	1, 389	1, 390	1, 390	
			実 績	1, 389	1, 390	— — —		
		活動指標 3	名称	耐震性貯水槽解体件数			単位	件
			内容説明	防火水槽用地の借地返還などで解体した防火水槽				
			指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
				予 定	0	1	0	
			実 績	0	1	— — —		
課 題								
・ 防火水槽用地のうち、6 か所については、賃貸借契約によるものであり、貸主の都合により返還を要求される場合があります。 ・ 市内に老朽化（5 0 年以上経過）した防火水槽が 7 0 基以上あり、経年防火水槽躯体強度調査並びに修繕の計画策定が課題となります。		活動指標 4	名称	経年防火水槽躯体強度調査件数			単位	件
			内容説明	経年防火水槽躯体強度調査を実施した件数				
			指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
				予 定	0	1	1	
	実 績	0	1	— — —				

4. 今後の方針等					
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度
	I：現状のまま継続				
	・消防隊による月1回の適切な点検により、異常箇所の把握に努め、早期修繕を行うことで消防水利の万全な状態を維持します。 ・消火栓及び排水栓の水道施設管理者である大和水道営業所との調整事務を円滑に進めます。				



事務事業名	都市間等災害協力推進事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	警防係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標	暮らしの安全を守る		
	めざす成果	十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	消防組織法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和39年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
近隣消防機関及び関係機関		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
	事業費	705	1,328	969
	人件費	2,052	3,047	3,047
目 的	総事業費	2,757	4,375	4,016
大規模な災害又は特殊な災害の発生時に、適切な対応ができるように他機関との連携を図ります。	6年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
	県支出金			0
	市債			0
	その他			0
	一般財源			969
	合 計			969

手段、手法【実施手法：直営】				
	・他消防機関及び関係機関と応援協定等を結び、定期的に会議等を行い、連携強化を図ります。			
	・他都市での大規模災害時には、消防庁長官の指示又は求めに応じ、緊急消防援助隊を被災地へ派遣します。			
	・県内消防広域応援実施計画に基づき県内消防機関と連携強化を図ります。			
	・本市での大規模災害時には、他消防機関及び関係機関からの応援部隊を支援し、連携して災害対応を図ります。			

成 果（効果・予測）	市単独での消防力には限界があるため、消防機関が相互に応援、受援を行うとともに、他機関と連携し、専門的な見地から安全管理や災害対応を行うことで、大規模災害又は特殊災害に的確に対応することができます。			
------------	--	--	--	--

課 題	活動指標 1	名称	会議の回数		単位	回
		内容説明	事務担当者会議などで、情報交換を実施しています。			
		指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
			予 定	10	10	10
			実 績	7	10	――
	活動指標 2	名称	緊急消防援助隊の派遣隊員数		単位	人
		内容説明	大規模災害等の発生により、派遣した隊員の延べ人数です。			
		指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
			予 定	10	10	10
			実 績	0	41	――
	活動指標 3	名称	合同訓練の参加回数		単位	回
		内容説明	大規模災害を想定した各消防機関との訓練回数			
		指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
			予 定	8	8	8
			実 績	5	6	――
	活動指標 4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
			予 定			
課 題	活動指標 4	指標値	実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	・県内消防相互応援協定等の各協定や緊急消防援助隊に基づく受援応援活動が適切かつ迅速に行えるように他消防機関及び関係機関との連絡調整及び合同訓練を継続して行います。					

事務事業名	消防団車両維持管理事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標		暮らしの安全を守る		
	めざす成果		十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	消防組織法			
		道路運送車両法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和39年度				設定無し

2. 事務事業の概要					
対 象		総事業費（単位：千円）			
消防団車両			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
		事業費	2,894	3,662	3,588
		人件費	857	871	871
目 的		総事業費	3,751	4,533	4,459
消防団車両を適切に維持管理することで災害及び事案に対して迅速に対応できるようにします。		6年度事業費（予算額）財源内訳			
			国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 ・年間整備計画に基づき、全車両の点検整備等を実施します。 ・運行に必要な保険手続き、燃料費の支払いを行います。			県支出金		0
			市債		0
			その他		0
			一般財源		3,588
			合 計		3,588
3. 活動内容					
活動指標1	名称	車両の点検整備数			単位 台
	内容説明	法定点検実施台数			
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
		予 定	19	19	19
		実 績	19	19	――
成 果（効果・予測）		災害発生時、常に円滑な出動体制を確保できます。			
活動指標2	名称	車両の保険手続数			単位 台
	内容説明	車検に伴い、保険等の継続を行います。			
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
		予 定	7	12	7
		実 績	7	12	――
活動指標3	名称				単位
	内容説明				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
		予 定			
		実 績			――
課 題		消防車両の基本性能は、向上していますが、車両更新までおよそ20年間使用するため、車両及びポンプの維持管理が必要です。			
活動指標4	名称				単位
	内容説明				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
		予 定			
		実 績			――

4. 今後の方針等					
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度
				I：現状のまま継続	
消防団員による日常点検、消防署所で実施する車両点検等により、異常個所の早期発見に努めるとともに法定点検等を定期的に行い、車両の維持管理に努めます。					

事務事業名	消防団員被服貸与事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	まちの健康・安全で安心して暮らせるまち			
	個別目標	暮らしの安全を守る			
	めざす成果	十分な消防力が整っている			
根拠法令	名 称	消防組織法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和39年度				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費				(単位：千円)		
消防団員等		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）			
	事業費	4,005	9,377	4,917			
	人件費	2,818	2,905	2,105			
目 的	総事業費	6,823	12,282	7,022			
消防団員と災害消防協力隊の災害活動時の安全を確保します。	6年度事業費（予算額）財源内訳						
手段、手法【実施手法：直営】		国支出金	935				
		県支出金	1,492				
		市債	0				
		その他	0				
		一般財源	2,490				
		合 計	4,917				
・消防団員に被服及び防火衣等を貸与します。							
・被服は損傷状態に応じて、消防団員に再貸与します。							
成 果（効果・予測）	3. 活動内容						
活動指標 1	名称	消防団員被服整備実績			単位	式	
	内容説明	消防団員への被服一式貸与実績数					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度		
		予 定	20	18	15		
		実 績	15	15	――		
消防団員各個人の体型にあった被服を貸与することで、効率的な消防活動と安全が確保できます。	活動指標 2	名称	防火帽・防火衣（上衣）・防火ズボンの整備数			単位	式
内容説明		災害現場での安全を確保する被服の整備					
指標値			4年度	5年度（当該年度）	6年度		
		予 定	0	12	12		
		実 績	0	12	――		
活動指標 3	名称	防火長靴の整備数			単位	足	
	内容説明	災害現場での安全を確保する被服の整備					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度		
		予 定	34	0	17		
		実 績	34	0	――		
課 題	活動指標 4	名称				単位	
内容説明							
指標値			4年度	5年度（当該年度）	6年度		
		予 定					
		実 績			――		
消防団への入団促進と団員の安全確保のため、活動服の更新が必要です。							

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続

事務事業名	消防団車庫詰所施設維持管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	まちの健康・安全で安心して暮らせるまち			
	個別目標	暮らしの安全を守る			
	めざす成果	十分な消防力が整っている			
根拠法令	名 称	消防組織法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和39年度				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
消防団車庫詰所施設		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
	事業費	6,991	7,184	5,527
	人件費	4,621	3,340	2,976
目 的	総事業費	11,612	10,524	8,503
消防団車庫詰所を適切に維持管理します。  手段、手法【実施手法：直営】 ・各消防団からの修理依頼に基づき、担当者が各施設を調査し18施設の補修を行います。 ・定期的に各施設を調査し維持補修を行います。	6年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		5,527
		合 計		5,527
	3. 活動内容			
	活動指標1	名称	消防団施設の修理件数	単位 件
		内容説明	老朽化に伴い行った各施設の修理件数	
		指標値	4年度	5年度（当該年度）
			予 定	20
			実 績	11
成 果（効果・予測） 消防団拠点施設を計画的に修繕することで、施設の機能を維持することができます。	活動指標2	名称	修繕箇所の調査	単位 回
		内容説明	車庫詰所の修繕箇所の確認	
		指標値	4年度	5年度（当該年度）
			予 定	20
			実 績	20
	活動指標3	名称		単位
		内容説明		
		指標値	4年度	5年度（当該年度）
			予 定	
			実 績	
課 題 ・消防団施設は、市内に18施設ありますが、昭和50年代に建築された施設もあり、外壁、内装の補修が必要です。 ・ホース干塔が老朽化しており、錆対策等を検討する必要があります。	活動指標4	名称		単位
		内容説明		
		指標値	4年度	5年度（当該年度）
			予 定	
			実 績	
	活動指標5	名称		単位
		内容説明		
		指標値	4年度	5年度（当該年度）
			予 定	
			実 績	

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	・ 車庫詰所の機能が継続的に維持できるように、外装、内装の修繕を計画的に実施します。					
	・ 消防団員の健康面及び環境を考慮するとともに、衛生面に配慮した施設を整備します。					

事務事業名	消防団員手当等支給事務			
事務事業担当	部  名	課  名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標		暮らしの安全を守る		
	めざす成果		十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	消防組織法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和39年度				設定無し

2. 事務事業の概要						
対 象		総事業費 (単位：千円)				
消防団員			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）	
		事業費	41,275	56,902	43,170	
		人件費	4,442	3,340	2,976	
目 的		総事業費	45,717	60,242	46,146	
消防団員の活動に対して報酬・出勤手当を支給します。		6年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金			0	
【手段、手法【実施手法：直営】】 消防団員の報酬、水火災及び警戒又は訓練等のために出勤した回数に応じた手当の支給並びに退団者（5年以上在団者）への退職報償金の支給を行います。		県支出金			0	
		市債			0	
		その他			2,585	
		一般財源			40,585	
		合 計			43,170	
3. 活動内容						
活動指標1	名称	消防団の役員及び団員の報酬支給人員			単位	人
	内容説明	年額を定められた年間2回の支給者数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	240	230	230	
		実 績	211	220	――	
活動指標2	名称	出勤報酬			単位	人
	内容説明	警戒・訓練のための出勤の人員				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	9,337	13,195	7,318	
		実 績	6,518	9,739	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	
課 題						
・消防団員の報酬は前期、後期の年2回支出しているため支給時期に事務量が増加します。 ・災害出勤、警戒・訓練等の出勤手当は毎月支給しているため、月初めに事務量が増加します。 ・退職報償金については、年度により変動します。						

4. 今後の方針等						
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	・今後もイベント会場等での消防団入団促進を行います。 ・女性消防団員の入団促進及び活動の範囲を検討します。					

事務事業名	消防団員健康管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち			
	個別目標		暮らしの安全を守る			
	めざす成果		十分な消防力が整っている			
根拠法令	名 称	消防組織法				
		労働安全衛生法				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和34年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
消防団員		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
	事業費	1,001	978	1,188
	人件費	857	871	871
目 的	総事業費	1,858	1,849	2,059
災害活動での安全管理のため、消防団員の健康維持増進を図ります。	6年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		1,188
		合 計		1,188
手段、手法【実施手法：直営・委託】				
消防団員の健康状況を把握する必要があることから、年1回の健康診断を実施します。				

活動指標1	名称	消防団員健康診断			単位	回
	内容説明	年1回の実施				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	1	1	――	
活動指標2	名称	健康診断受診者数			単位	人
	内容説明	消防団員の健康診断				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	142	140	135	
		実 績	130	127	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	・企業等に勤める消防団員が受診しやすい土曜・日曜に実施し、受診率の向上を図ります。 ・健康診断を受診できない団員で、勤務先で健康診断を実施している時には、健康診断結果の提出を依頼します。					



事務事業名	消防団員研修・技術向上支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち			
	個別目標		暮らしの安全を守る			
	めざす成果		十分な消防力が整っている			
根拠法令	名 称	消防組織法				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和39年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
消防団員		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
	事業費	618	1,791	915
	人件費	3,426	4,210	3,846
目 的	総事業費	4,044	6,001	4,761
消防団員の災害活動に必要な知識・技術を習得する場を提供し、災害対応力の向上を図ります。	6年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金		0	
手段、手法【実施手法：直営】 ・知識・技術の習得を図るため、神奈川県消防学校における研修に消防団員を派遣します。また、実務研修会などを開催します。 ・消防操法大会に向けた訓練を通じ、消火及び器具取扱い技術の向上を図ります。	県支出金		0	
	市債		0	
	その他		0	
	一般財源		915	
	合 計		915	

3. 活動内容

活動指標1	名称	神奈川県消防学校における研修への参加人数			単位	人
	内容説明	神奈川県消防協会が主催する各種講習に参加します。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	17	18	17	
		実 績	18	17	――	
活動指標2	名称	実務研修の開催回数			単位	回
	内容説明	消火、救命の実務研修を開催し団員の技術向上を図ります。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	4	5	5	
		実 績	4	4	――	
活動指標3	名称	市操法大会実施回数又は県操法大会出場回数			単位	回
	内容説明	消防操法を通じ、消火技術と指揮統制の向上を図ります。				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	1	1	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	全消防団員対象に実践的な研修を行い、県又は県消防協会が実施する専門研修に多くの消防団員を派遣できるように計画します。					



事務事業名	消防団運営支援事務			
事務事業担当	部  名	課  名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間				
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち	
	個別目標		暮らしの安全を守る	
	めざす成果		十分な消防力が整っている	
根拠法令	名 称	消防組織法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和34年度			
				設定無し

2. 事務事業の概要								
対 象		総事業費 (単位：千円)						
消防団本部及び各分団			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）			
		事業費	1,900	1,900	1,900			
		人件費	857	4,210	3,846			
目 的		総事業費	2,757	6,110	5,746			
消防団の活動が円滑に行えるようにします。  手段、手法【実施手法：直営】 消防団本部並びに各分団及び班に対して、消防団運営に必要な通信運搬費などを支給します。		6年度事業費（予算額）財源内訳						
		国支出金		0				
		県支出金		0				
		市債		0				
		その他		0				
		一般財源		1,900				
		合 計		1,900				
		3. 活動内容						
		活動指標 1	名称	運営資金対象数			単位	団体
			内容説明	1 消防団本部 1 2 分団 5 班への支援、補助				
指標値			4年度	5年度（当該年度）	6年度			
	予 定		18	18	18			
	実 績		18	18	— — —			
活動指標 2	名称				単位			
	内容説明							
	指標値			4年度	5年度（当該年度）	6年度		
		予 定						
		実 績			— — —			
活動指標 3	名称				単位			
	内容説明							
	指標値			4年度	5年度（当該年度）	6年度		
		予 定						
		実 績			— — —			
活動指標 4	名称				単位			
	内容説明							
	指標値			4年度	5年度（当該年度）	6年度		
		予 定						
		実 績			— — —			
課 題								
消防団は、各地域で実施される地域防災訓練指導のほか各種地域行事の警備を実施しており、大規模災害発生時には、地域との連携を活かした消防、防災活動を行う組織であり、今後も重要な役割を担っていくものと考えられますが、団員不足が課題となっています。								

4. 今後の方針等					
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度
	I：現状のまま継続 今後も各地域で活動している消防団の運営に必要な通信運搬費などの支給を行っていきます。 【第2期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】				

9719  
一般会計

4. 今後の方針等						
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	・大和水道営業所の配水管工事の実施にあわせて設置を行います。 ・未整備地域への配水管敷設による消火栓の増設について、今後も、大和水道営業所と調整を図ります。 ・区画整理事業及び大規模な開発を行う事業者に対し、消火栓の設置協力を依頼し整備を図ります。					

事務事業名	防火水槽設置事業			
事務事業担当	部  名	課  名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	警防係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標		暮らしの安全を守る		
	めざす成果		十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	消防法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
					設定無し

2. 事務事業の概要						
対 象		総事業費 (単位：千円)				
市内全域に設置してある防火水槽			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）	
		事業費	0	0	0	
		人件費	857	435	435	
目 的		総事業費	857	435	435	
火災等の発生時に対応する、消防水利の充実を図ります。		6年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金			0	
手段、手法【実施手法：委託】 消防水利の設置基準に基づき、40立方メートル型耐震性貯水槽を防火水槽未設置地域内にある公園等の公共施設に設置します。		県支出金			0	
		市債			0	
		その他			0	
		一般財源			0	
		合 計			0	
3. 活動内容						
活動指標1	名称	耐震性貯水槽新規設置数			単位	基
	内容説明	新たに設置した耐震性防火水槽				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	0	0	0	
		実 績	0	0	――	
活動指標2	名称	私設防火水槽新規設置数			単位	基
	内容説明	開発行為により設置された私設防火水槽数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	3	2	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	
課 題						
防火水槽の用地選定に限りがあり、未設置の地区も残っています。						

4. 今後の方針等					
今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度  I：現状のまま継続
	・設置にあたっては、国庫補助金等の利用を積極的に行います。				
	・未設置地区も残っていることから、市の開発事業と連携し、効果的な設置を行います。				

事務事業名	消防啓発事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標	暮らしの安全を守る		
	めざす成果	十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	消防組織法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成21年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
	事業費	531	492	483
	人件費	7,350	7,986	7,258
目 的	総事業費	7,881	8,478	7,741
消防啓発事業を実施することにより、市民、企業の災害対応意識を高めます。	6年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
手段、手法【実施手法：直営・委託】	県支出金			0
	市債			0
	その他			0
	一般財源			483
	合 計			483
・消防に対する市民の認識を深めてもらうため、消防出初式を実施します。				
・企業、消防団及び消防署による合同訓練、イベントなどの消防啓発事業を実施します。				

活動指標1	名称	消防出初式			単位	人
	内容説明	市民の見学者数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	1,800	1,800	1,800	
		実 績	1,800	2,100	―――	
活動指標2	名称	企業、消防団及び消防署による合同訓練			単位	団体
	内容説明	訓練に参加する企業の数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	4	4	4	
		実 績	0	2	―――	
活動指標3	名称	歳末特別警戒			単位	世帯
	内容説明	消防署、消防団により実際に警戒した世帯数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	110,000	114,000	116,000	
		実 績	110,000	114,000	―――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			―――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	・消防に対する市民の認識を深めてもらうため、消防出初式を実施します。 ・企業、消防団及び消防署による合同訓練、イベントなどの消防啓発事業を実施します。					

事務事業名	災害情報機器等整備管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内 一範

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標	暮らしの安全を守る		
	めざす成果	十分な消防力が整っている		
根拠法令	名 称	航空法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成30年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
災害情報機器等		4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）
	事業費	6,792	5,908	5,923
	人件費	6,334	5,224	4,788
目 的	総事業費	13,126	11,132	10,711
災害対応のために必要となる情報を、効率よく収集し、活用します。	6年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金		0	
手段、手法【実施手法：直営】 災害情報機器等を、常に適正な状態で管理します。	県支出金		0	
	市債		0	
	その他		0	
	一般財源		5,923	
	合 計		5,923	

3. 活動内容

活動指標1	名称	無人航空機操作員養成数			単位	人
	内容説明	無人航空機操作員の養成人数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	11	4	13	
		実 績	11	4	――	
活動指標2	名称	無人航空機活用実績件数			単位	件
	内容説明	災害等で飛行した実績件数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	2	2	2	
		実 績	3	2	――	
活動指標3	名称	遠隔情報共有システムを活用した訓練			単位	回
	内容説明	遠隔情報共有システムを活用した訓練回数				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	12	12	12	
		実 績	10	12	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続	5年度	I：現状のまま継続
	引き続き、無人航空機操作員の養成や災害情報機器を活用した訓練を実施し、情報収集及び情報活用能力の向上に努めます。					
	【第2期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					

事務事業名	第6分団車庫詰所建替事業			
事務事業担当	部名	課名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間				
総合計画体系	基本目標		まちの健康・安全で安心して暮らせるまち	
	個別目標		暮らしの安全を守る	
	めざす成果		十分な消防力が整っている	
根拠法令	名 称	消防法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	令和05年度		令和07年度	3年

2. 事務事業の概要						
対 象		総事業費 (単位：千円)				
消防団車庫詰所			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）	
		事業費	0	31,623	8,074	
		人件費	0	871	871	
目 的		総事業費	0	32,494	8,945	
消防団第6分団が適切に災害出動出来る環境を保つことで消防団の災害対応能力を維持します。		6年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金			0	
手段、手法【実施手法：直営・委託】 老朽化した消防団車庫詰所の建替を行います。		県支出金			0	
		市債			8,000	
		その他			0	
		一般財源			74	
		合 計			8,074	
3. 活動内容						
活動指標1	名称	消防団車庫詰所の設計			単位	棟
	内容説明	消防団第6分団車庫詰所				
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	0	0	1	
		実 績	0	0	— — —	
活動指標2	名称	消防団車庫詰所用地取得			単位	㎡
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定	0	130	0	
		実 績	0	139.24	— — —	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			— — —	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度	
		予 定				
		実 績			— — —	
課 題		消防団車庫詰所は17施設ありますが、老朽化、狭隘化した施設の計画的な建替を行う必要があります。				

4. 今後の方針等					
今後の方針等	3年度	－	4年度	－	5年度 I：現状のまま継続
	消防団車庫詰所の補修、維持管理に努め、狭隘、老朽化した施設の建替えを計画的に実施します。				

事務事業名	消防本部資機材倉庫整備事業			
事務事業担当	部  名	課  名	担当名	責任者
	消防本部	警防課	施設係	大内  一範

1. 位置づけ・事務事業の期間				
総合計画体系	基本目標	まちの健康・安全で安心して暮らせるまち		
	個別目標	暮らしの安全を守る		
	めざす成果	十分な消防力が整っている		
根拠法令	名  称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度	事業期間	
	令和05年度	令和05年度	1年	

2. 事務事業の概要							
対 象		総事業費 (単位：千円)					
消防本部資機材倉庫			4年度（決算額）	5年度（決算額）	6年度（予算額）		
		事業費	0	14,210	0		
		人件費	0	871	0		
目 的		総事業費	0	15,081	0		
救急活動に必要な資器材を保管する場所の確保が必要となったため、消防本部敷地内に倉庫の整備を行います。		6年度事業費（予算額）財源内訳					
		国支出金		0			
		県支出金		0			
		市債		0			
		その他		0			
		一般財源		0			
		合 計		0			
手段、手法【実施手法：委託】							
・アルミ製備蓄倉庫2連棟及び基礎を設置します。 ・倉庫内に棚12台を設置します。		3. 活動内容					
		活動指標1	名称	資機材倉庫を設置		単位	棟
内容説明	資器材等を保管します						
指標値			4年度	5年度（当該年度）	6年度		
	予 定		0	1	0		
	実 績		0	1	――		
成 果（効果・予測）							
庁舎内の各倉庫等に保管していた、資器材等を整備した資機材倉庫に収納することで、管理・確認がスムーズに行えます。		活動指標2	名称			単位	
			内容説明				
			指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
				予 定			
				実 績			――
課 題		活動指標3	名称			単位	
			内容説明				
			指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
				予 定			
				実 績			――
倉庫内の維持管理方法を効率よく行えるよう計画していきます。		活動指標4	名称			単位	
			内容説明				
			指標値		4年度	5年度（当該年度）	6年度
				予 定			
				実 績			――

4. 今後の方針等					
今後の方針等	3年度	－	4年度	－	5年度  Ⅲ：廃止または終了
	令和5年度で事業は終了します。				